

# サツマイモの文献・資料

## 1 文献・資料

### (1) 単行本

- ド・カンドル A. 1883. 栽培植物の起源 (加茂儀一訳). 改造社.
- 日本甘藷馬鈴薯株式会社. 1948. さつまいも及びじゃがいもの渡来. 新生社.
- 飯島 茂 (編). 1950. 甘藷馬鈴薯増産技術の基礎. 日本園芸中央会. 長野県社村.
- 井浦 徳. 1951. 沖縄に於ける甘藷の育種事業とその業績の概要. 農業改良技術資料 17. 農林省農業改良局研究部.
- 森本 宏. 1957. 飼料としてのサツマイモ. 富民社. 大阪市.
- 宮本常一. 1962. 甘藷の歴史. 未来社.
- 小野田正利. 1965. さつまいもの改良と品種の動向. (財) 諸類会館.
- 平野元三郎. 1968. 青木昆陽伝. 隣人社.
- 関藤之介. 1968. 明治 100 年記念 甘藷と澱粉百年の歩み. 茨城澱粉センター.
- 渡辺和之. 1970. 現代農業技術双書 カンショ. 家の光協会.
- 九州農業試験場. 1972. かんしょ品種ならびに系統の特性. 九州農業試験場.
- Yen, D. E. 1974. The sweet potato and oceania. B. P. Bishop Museum bul. 236.
- 田中正武. 1975. 栽培植物の起原. NHK ブックス 245. 日本放送協会.
- 原野農芸博物館. 1978. さつまいも文化. 原野農芸博物館図録第 11 集.
- ヴァヴィロフ N. 1980. 栽培植物発祥地の研究 (中村英司訳). 八坂書房.
- Villareal, Ruben L. and Griggs, T. D. (Eds.). 1982. Sweet Potato. Proceedings of The First International Symposium, Asian Vegetable Research and Development Center (AVRDC), Taiwan.
- 井上 浩. 1984. サツマイモの話—川越イモとその周辺—. たなかや出版部. 川越市.
- 小林 仁. 1984. サツマイモのきた道. 古今書院.
- 華 應熊・周 星姉. 1984. 中国甘藷栽培学. 上海科学技術出版社.
- Bouwkamp, John C. 1985. Sweet Potato Products : A Natural Resource for the Tropics. CRC Press, Inc., Boca Raton, Florida, USA.
- 坂井健吉. 1986. 改訂サツマイモのつくり方 (第 2 版). 農文協.
- International Potato Center (CIP). 1987. Exploration, Maintenance, and Utilization of Sweet Potato Genetic Resources. CIP.
- Clark, C. A. and Moyer, J. W. 1988. Compendium of Sweet Potato Diseases. APS Press, Minnesota, USA.
- 武田英之. 1989. まるごとたのしむサツマイモ百科. 農文協.
- いも類振興会 (編). 1991. 甘しょ・ばれいしょ おいも全書. (財) いも類振興会.

- いも類振興会 (編). 1991. 甘しょ・ばれいしょ おいもと栄養. (財) いも類振興会.
- 木村三千人. 1991. いも地蔵巡礼. 国書刊行会.
- Jones, A. and Bouwkamp, J. C. 1992. Fifty Years of Cooperative Sweetpotato Research 1939-1989. Southern Cooperative Series Bulletin No.369.
- Woolfe, J. A. 1992. Sweetpotato : an untapped food resource. Cambridge Univ. Press and the International Potato Center (CIP). Cambridge, UK.
- Hill, W., Conrad, A., Bonsi, K. and Loretan, P. A. 1992. Sweetpotato technology for the 21st century. Tuskegee Univ., USA.
- 山田尚二. 1994. さつまいも一伝来と文化 (かごしま文庫 19). 春苑堂出版. 鹿児島市.
- 影山光洋. 1995. 芋っ子ヨッチャンの一生. 新潮社.
- Ames, T., Smit, N. E. J. M., Braun, A. R., O'Sullivan, J. N. and Skoglund, L. G. 1997. Sweetpotato : Major Pests, Diseases, and Nutritional Disorders. International Potato Center (CIP).
- 陸 漱韻・劉 慶昌・李 惟基 1998. 甘薯育種学. 中国農業出版社.
- 坂井健吉. 1999. もの与人間の文化史 90・さつまいも. 法政大学出版局.
- 中馬克己. 2002. 日本甘藷栽培史. 高城書房. 鹿児島市.
- 南日本新聞社. 2002. 再発見、からいもの魅力. 南方新社. 鹿児島市.
- 塩谷 掬. 2006. サツマイモの遍歴 野生種から近代品種まで. 法政大学出版局.
- 前田寿紀. 2006. 戦中・戦後甘藷増産史研究. 学文社.
- 記念誌編纂部会 (編). 2006. 野國總管甘藷伝来 400 年祭 記念誌 野國總管. 嘉手納町「野國總管甘藷伝来 400 年祭実行委員会」.

## (2) 原著論文等

- 寺尾 博. 1934. 甘藷の品種における交配不稔群. 農業及び園芸, 9 : 1163-1167.
- 繁村 親・高橋達蔵・柿原倉太. 1938. 人為開花法による甘藷の交配育種. 日作紀, 10 : 281-296.
- 渡邊清彦. 1939. 本邦産甘藷及び其の近縁植物の染色体. 日作紀, 11 : 124-134.
- Nishiyama, I. 1961. The origin of sweet potato. In Tenth Pacific Sci., Univ. Hawaii, Honolulu. 119-128.
- 秋田重男ら. 1962. 甘藷の直播に関する研究. 中国農試報告 A, 第 8 号 : 75-128.
- 藤瀬一馬. 1964. 甘藷品種の開花結実性と自家ならびに交配不和合性に関する研究. 九州農試彙報, 9 : 123-246.
- 坂井健吉. 1964. 甘藷の育種における変異の拡大と選抜法の改善に関する研究. 九州農試彙報, 9 : 247-397.
- 坂井健吉. 1966. 甘藷の機械化栽培と育種. 育種学最近の進歩, 第 7 集. 養賢堂. 東京. 84-90.
- Jones, A. 1968. Chromosome number in *Ipomoea* and related genera. Jour. Hered., 59 : 99-102.
- 菊川 誠・坂井健吉. 1969. 甘しょにおける線虫抵抗性品種の育成方法に関する研究. 九州農試彙報, 14 : 365-397.

- 坂井健吉. 1969. サツマイモの品質育種. 育種学最近の進歩, 第10集. 養賢堂. 東京. 53-60.
- O'Brien, P. J. van. 1972. The sweet potato; its origin and dispersal. *Amer. Anthropologist*, 74: 342-362
- 小林 仁. 1972. 甘藷直播用品種の結藪型とその育種利用に関する研究. 中国農業試験場報告, A21: 21-64.
- 農林省九州農業試験場. 1972. かんしょ品種ならびに系統の特性. 九州農業試験場研究資料 第43号.
- 西山市三. 1976. 日米サツマイモ起原論争の焦点1・2. 遺伝, 30(7): 64-69, 30(8): 49-53.
- 四方俊一. 1980. カンショにおける任意交配集団の育種的利用に関する研究. 中国農試報告, A28: 1-48.
- 小林 仁. 1981. サツマイモの起原と分化1. サツマイモの原産地と品種の分化. 育種学最近の進歩, 第22集. 養賢堂. 東京. 107-113.
- 塩谷 格・川瀬恒男. 1981. サツマイモの起原と分化2. ゲノム構造と栽培化. 育種学最近の進歩, 第22集. 養賢堂. 東京. 114-134.
- 坂本 敏. 1986. カンショにおける連作障害に対する育種的アプローチ. 育種学最近の進歩, 第27集. 121-130.
- Austin, D. F. 1988. The taxonomy, evolution and genetic diversity of sweetpotatoes and related wild species. In P. Gregory (ed.). *Exploration, maintenance, and utilization of sweetpotato genetic resources*. CIP, Lima, Peru, 27-60.
- 樽本 勲・竹股知久・湯之上忠. 1992. 農業研究センター育成・保存甘藷の来歴・特性一覧ならびに指宿市立図書館所蔵甘藷文献目録. 農業研究センター資料 23: 99-126.
- Zhang, D. P. *et al.* 1998. AFLP assesment of sweetpotato genetic diversity in four tropical American regions. *CIP Program Report 1997-1998*, 303-310.
- 山川 理・須田郁夫・吉元 誠. 1998. 高アントシアニンサツマイモの開発と利用. *Foods & Food Ingredients Journal of Japan*, 178: 69-78.
- 津久井亜紀夫・鈴木敦子・小巻克巳・寺原典彦・山川 理・林 一也. 1999. さつまいもアントシアニン色素の組成比と安定性. *日本食品科学工学会誌*, 46: 148-154.
- 小巻克巳. 2001. サツマイモ近縁野生植物の系統分類およびその育種的利用に関する研究. 作物研究所研究報告, 1: 1-56.
- 須田郁夫. 2001. 有色サツマイモ. 「大地からの健康学: 地域特産と生活習慣病予防」(篠原和毅・近藤和雄監修). 農林統計協会. 東京. 186-191.
- Tan, S. L., Nakatani, M. and Komaki, K. 2007. *Breeding of Sweetpotato*. *Breeding Major Food Staples*, Blackwell Pub. 333-363.

### (3) 定期刊行物

- いも・でん粉に関する資料. 農林水産省生産局生産流通振興課. 年刊  
いも類振興情報. (財)いも類振興会 (03-3588-1040). 季刊

さつまいも Mini 白書. 日本いも類研究会. 4年に1回改訂  
でん粉情報. (独) 農産業振興機構 (調査情報部情報課 03-3583-9272). 月刊  
Proceedings of the Symposium of the International Society for Tropical Root Crops. (国際熱  
帯いも類シンポジウム報告). ほぼ3年に1回の開催後に刊行. 英文  
Sweetpotato Research Front. National Agricultural Research Center for Kyushu Okinawa  
Region (KONARC). (九州沖縄農業研究センター). 年1~2回 (英文)

(4) ホームページ

日本いも類研究会 <http://www.jrt.gr.jp/>

(独) 農研機構 九州沖縄農業研究センター さつまいも育種研究チーム

<http://knaes.affrc.go.jp/team/Sweetpotato/index.html>

(独) 農研機構 九州沖縄農業研究センター 機能性利用研究チーム

<http://konarc.naro.affrc.go.jp/team/acre/kinousei/kinouseiteam.html>

International Potato Center (CIP) (国際ばれいしょ研究所. 本部: ペルー)

<http://www.cipotato.org/>

## 2 サツマイモ略年表

年	記 事
15 世紀末頃	新大陸からヨーロッパに伝播
16 世紀後半	中国南部に伝わる
1605 (慶長 10)	野國總管が中国の福建省から琉球 (沖縄県) に伝える
1615 (元和 元)	小さいを直播する「トンボ式栽培法」が長崎県平戸に伝わる
1705 (宝永 2)	前田利右衛門が琉球から薩摩 (現鹿児島県) に持ち帰り, 広めた
1732 (享保 17)	享保の大飢饉, サツマイモが普及していた薩摩・長崎では餓死者が出なかった
1733 (享保 18)	青木昆陽, 將軍吉宗に「蕃藷考」を呈上
1735 (享保 20)	青木昆陽, 幕命による江戸でのサツマイモ試作に成功
1789 (寛政 元)	大坂の珍古楼主人がサツマイモの料理集「甘藷百珍」を著す
1793 (寛政 5)	江戸に焼きいも屋が出現
1898 (明治 31)	埼玉県の山田いちが「八房」から「紅赤」を発見
1900 (明治 33)	久保田勇次郎がアメリカから「七福」を導入
1914 (大正 3)	沖縄県で人為交配による品種改良の事業が開始される
1929 (昭和 4)	中国から「つぼ焼き」が関西に入り, 翌年には東京に伝わる
1934 (昭和 9)	「沖縄 100 号」の育成 (沖縄県農事試験場)
1937 (昭和 12)	アメリカでつる誘引による開花促進技術を開発
1937 (昭和 12)	採種 (沖縄県) と選抜育成試験の全国的組織化
1942 (昭和 17)	「農林 1 号」の育成 (千葉県農事試験場)
〃	「農林 2 号」の育成 (鹿児島県農事試験場)
1944 (昭和 19)	沖縄県 (指定試験) で行われてきた交配採種事業を中断し, 一部を鹿児島県 (指宿) に移す
1945 (昭和 20)	「高系 14 号」の育成 (高知県農事試験場)
1947 (昭和 22)	交配採種事業を鹿児島県から国 (農事試験場指宿試験地) に移管
〃	選抜育成試験の組織強化 (千葉, 岡山, 鹿児島)
1958 (昭和 33)	キダチアサガオ高接ぎ法による開花促進技術の開発
1965 (昭和 40) 頃	マルチ栽培法が始まる
1966 (昭和 41)	「コガネセンガン」の育成 (九州農業試験場)
1979 (昭和 54)	国によるサツマイモの遺伝資源探索・導入・保存事業開始
1984 (昭和 59)	「ベニアズマ」の育成 (農業研究センター)
1985 (昭和 60) 頃	ウイルスフリー苗の普及
1989 (平成 元) 頃	サツマイモの周年供給実現